



OPENING / RECEPTION /

3月10日 | 日 | 17:00 - 19:00

TALK / EVENT /

4人の作家によるアーティスト・トーク

企画主旨である「境界」と彼岸の中日である春分の日
にちなんだカクテルをご用意します。

3月20日 | 水・祝 | 17:00 - 19:00

参加費 300円 (special cocktail 付き)
*ご予約不要

WORK / SHOP

武藤亜希子による『なくしもの屋』開店!

遠い昔になくしてしまったものを思い出し、フェルトで作って
みましょう。出来上がったものは会期中展示し、会期終了後に
素敵な箱に入れてお渡しします。

『なくしもの屋』営業日

3月20日 | 水・祝 |

3月23日 | 土 | いずれも 14:00 - 16:30

3月30日 | 土 |

参加費 1,000円 (お茶付き) *ご予約不要

gallery COEXIST-TOKYO

〒135-0042 東京都江東区木場 3-18-17 2F

Tel/Fax 03-5809-9949 HP <http://coexist-tokyo.com>



東西線 木場駅3番出口から徒歩6分
東西線 大江戸線 門前仲町駅1番出口から徒歩10分

あなたという私

-双方方向のコミュニケーションで生まれるアート-

2013年3月10日 | 日 | - 3月31日 | 日 |

11:00 - 19:00 (月曜休廊)

■参加アーティスト■

立原真理子 / 町野三佐紀 / 武藤亜希子 / 渡辺望

gallery COEXIST-TOKYO



立原 真理子 (たちらは・まりこ)

1982 茨城県生まれ
2006 女子美術大学芸術学部洋画専攻卒業
2008 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画修了

中左上：「岸と戸」2012 網戸、刺繍糸、紙、透明水彩 サイズ可変
中左下：「めぐる川（部分）」2013 染料、海綿、綿布、断熱材 サイズ可変

町野 三佐紀 (まちの・みさき)

1977 富山県生まれ
2002 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻卒業
2009 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程油画修了

表：「さざめき」2012 ビデオインスタレーション モノクロ DVD 7min. (Loop)
「さざめき/夜陰」gallery COEXIST-TOKYO (東京)

武藤 亜希子 (むとう・あきこ)

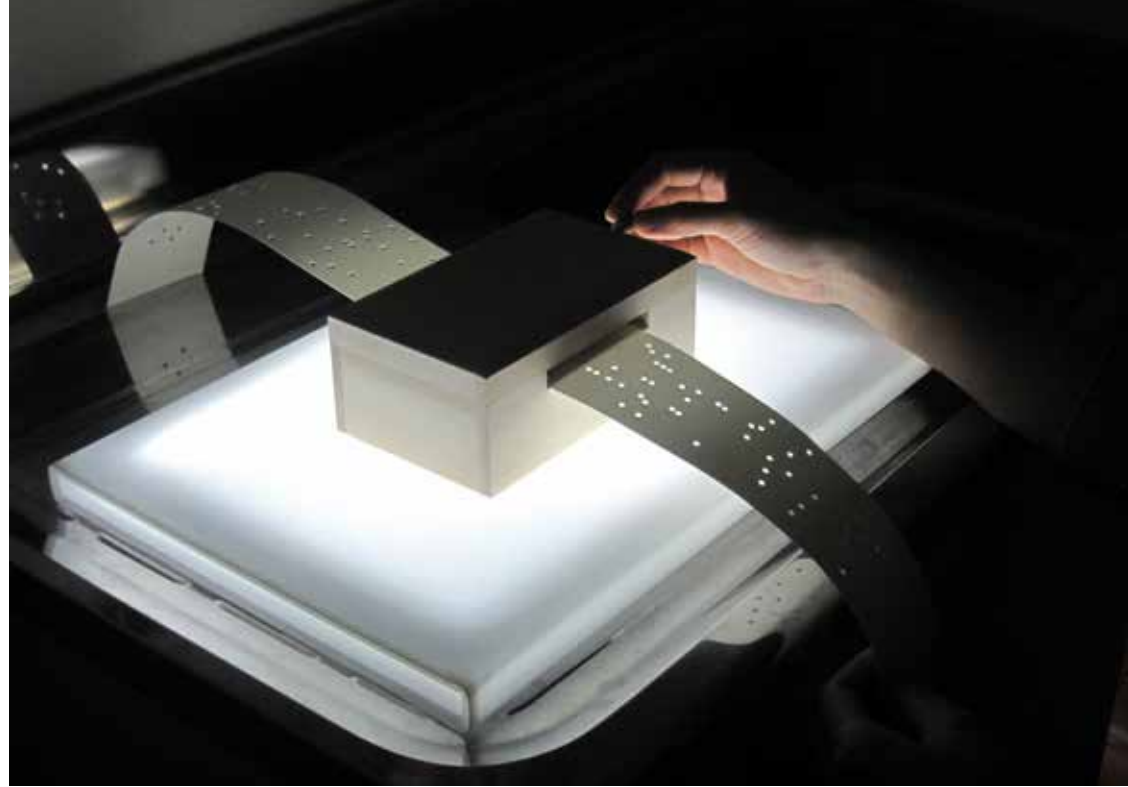
1975 千葉県生まれ
2000 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
2002 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画修了
2006 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程油画専攻領域満期修了

裏：「思い出の庭 T+S+U+M+A+R+I」2012 大地の芸術祭 越後妻有
アートトリエンナーレ2012 ハギレ、その他 (WS+展示の参加型アート) サイズ可変

渡辺 望 (わたなべ・のぞみ)

1984 神奈川県生まれ
2007 女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻 卒業
2009 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻油画研究領域修了

中右：「voice of the stars」インスタレーション (20音シート式オルガニート、シート、ライトボックス) ヤドカリトーキョー 04「アオヤマクライム」ファミリー青山 (東京)



人の歩幅も歩く速度も同じではない。
同じ場所にも見ている風景は同じではない。
あなたはどこでどんな景色を見ているのだろうか。

今展は、個人的な体験が埋め込まれた誰かの「記憶」を共通キーワードとして持つ4名の女性アーティスト、立原真理子、町野三佐紀、武藤亜希子、渡辺望によるコミュニケーションの原風景の提示と反問である。
4名のアーティストたちは自らの内を感じ、外を見渡し、その間にある距離を測りながら、様々な角度で世界との境界線や関わりについてアプローチしていく。横溢したイメージの中から、過去のなくし物の中から、網戸の格子から、そして夜空の星の中から「私」と「あなた」は繋がっているのだろうか?と問いかける。

表現するメディアは様々だが、どれも展示空間によって作品形態が変化するサイト・スペシフィックな要素を持ち、鑑賞者の視点が入ることによって作品を作品足らしめる。

自らの生い立ちや住環境が制作の源となっている町野、立原、渡辺。
町野は 表現媒体として映像を選び、海辺で育った者が持つ海への情景を無数のさざなみになぞる。鑑賞者の姿が映像と重なることで、身体の可塑性を意識させる。

立原は、内と外を隔てると同時に両者を行き来する機能を持つ網戸に刺繍を施すことで、内と外の繋がりを強く、さらに曖昧にする。刺繍された真っ赤な彼岸の景色が自分の立ち位置の脆弱さを浮き彫りにする。

渡辺は、言葉という神秘的な魔力を使って、見えなくても存在するものを導き出そうとしている。「i」の「・」だけを現出させた1冊の本は、澄み渡る夜空の星々であり、強いメッセージ性を持つ。

前者の3人と異なり全くの他人の記憶を借りて作品に昇華する武藤は、フェルト生地を使用する。自由に切り取られた生地は形を変える一方で痕跡を残していく。体験型である武藤の作品は手を動かすことで失った物を再出現させる。当事者以外の誰にもそれを出現させることはできない。

4名の提案する双方向のコミュニケーションで生まれるアートを体験することで、アートとパーソナルな関係を築いてゆく展示となる。

(テキスト：馬淵富美子)